

2025年3月28日
京都信用金庫

京都市動物園ゾウ繁殖プロジェクトへの支援継続を発表しました

京都信用金庫（本店：京都市下京区、理事長：榊田 隆之）は、2025年3月28日、2014年より支援している「京都市動物園サポーター制度」に基づくゾウ繁殖プロジェクトについて、今後も支援を継続していくことを発表するため、京都市および京都市動物園との共同記者発表を行いました。

このプロジェクトは、京都市動物園がラオス人民民主共和国よりアジアゾウ（オス1頭、メス3頭）の寄贈を受け、ゾウの飼育・健康管理・繁殖技術の向上を図るため、ゾウの発達や行動、生理指標など、繁殖に関する基礎データを収集する等の共同研究を実施し、京都市の生物多様性に貢献するものです。

今回の共同記者発表は、当金庫によるプロジェクトへの支援表明を機に、地域の事業者、個人の方が動物園をより身近に感じていただき、また、京都市動物園サポーター制度を通じた支援の輪を広げることが目的として開催しました。

当金庫は今後も当プロジェクトへの支援を通じて、地域の皆様とともに生き物との共生について考えていくとともに、市民をはじめとした人々の交流の場である京都市動物園を応援してまいります。

【今後の支援について】

2025年度より10年度にわたり、寄付総額2,000万円（毎年200万円）の支援を行います。
また引き続き、職員によるボランティア活動などの人的支援も実施してまいります。



記者発表の様子

（左より：コミュニティ・バンク京信 理事長 榊田 隆之、京都市長 松井 孝治 様、京都市動物園長 和田 晴太郎 様）

【京都市動物園と当金庫のあゆみ（抜粋）】

1978 年 ゾウ「ルパヒ」死亡の悲報を受けて、当金庫よりクアラルンプール市長にゾウ寄贈を要望した結果、1979 年に「美都」が京都市動物園に来園。

2003 年 金庫創立 80 周年事業として「ゾウ舎 日陰テント」や「案内表示」を寄贈。



2014 年 「京都市動物園サポーター制度」の第 1 号として、「京都市動物園におけるゾウの繁殖プロジェクト」を支援



ゾウ輸送にかかるチャーター費用など 5,000 万円を寄付し、以降 10 年間で総額 1 億円を寄付

2017 年 当金庫職員による京都市動物園内の清掃ボランティアを実施
～2019 年 延べ 463 名の職員とその家族が参加

2022 年 災害時の非常食として備蓄していた「カンパン」を寄贈
主にゾウが治療や検査を終えた後のご褒美として使用されています。

2024 年 株式会社 Halu の「IKOU ポータブルチェア」を京都市動物園図書館カフェに寄贈
障がいのある方でも座りやすいのが特徴で、京都市動物園をよりインクルーシブ（包摂的）な施設にするためのサポートとして寄贈しました。



▲2022 年 カンパンの寄贈



▲2024 年 チェアの寄贈